

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 22 日現在

機関番号：21401
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2014～2016
 課題番号：26450331
 研究課題名(和文) 超高齢化農村コミュニティの再生 - 住民意欲醸成手法の開発

研究課題名(英文) Revitalization of super-aged rural community

研究代表者

荒樋 豊 (ARAH, Yutaka)

秋田県立大学・生物資源科学部・教授

研究者番号：20369276

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、超高齢農村に暮らす高齢者を対象に、地域活動への関与のあり方の解明を目的に、複数の社会実験を企画し、地域づくり活動への参画促進を図った。本研究では、3つの領域(高齢者の行動特性、取組メニュー開発、行政との連携)からのアプローチを用意した。成果は次の通り。高齢者の行動特性をみると、多くの農村高齢者は、近隣ネットワークを維持し、その仲間からの誘いによって地域活動に参画していることが明らかになった。また、健康管理カードづくりや健康体操の開発及びその習慣づけ、朝市や地鶏肥育活動等の取組メニューを開発した。

研究成果の概要(英文)：This research planned more than one social experiment and planned for participation promotion to develop of region activity for the purpose of explication of the state of the participation to rural activities targeted for the senior citizen who lives in a super-aged rural community. Approach from three phases (senior citizen's behavioral characteristic, match menu development and cooperation with administration) was prepared by this research. The outcome is as follows. When senior citizen's behavioral characteristic is seen, many rural community senior citizens maintain a neighborhood network and take part in rural activities by an invitation from the company. Health care card making, development of exercise for health and it's conventionalized, and the match menu by which it's for a morning market and chicken of the place fattening activity has been developed.

研究分野：農村社会学

キーワード：超高齢農村 農村生活 日常的健康管理 農村活性化 高齢者農業 アクティブシニア

1. 研究開始当初の背景

(1) 高齢化の深まりは、かつて経験したことのない深刻な諸問題を引き起こしつつあり、人口減少による農村集落の消滅という蓋然性が強まってきている。このような実態を前に、農村社会・農業経済研究の分野においても、各種研究が進められ、深刻な問題性や構造要因に関する客観的抽出を果たしている。しかしながら、農村社会の再生に向けた実践的・応用的・実用的な研究は現状において、ほとんどみられない。

(2) 日本全体が世界に類をみない高齢社会に突入した今だからこそ、高齢化を先取りして経験してきた農村社会を見つめ直し、新たな農村コミュニティの姿を再構築することが強く求められている。そこで、本研究は、超高齢農村に暮らす高齢者の日常的な諸行動や社会関係を踏まえながら、農村地域の住民による活性化実践を対象とし、研究者との協働による高齢者実践という社会実験を企画・実行し、その実践を成立・持続させるシステムを明らかにしようとするものである。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、農村社会に暮らす高齢者を対象に、学際的なアプローチにより彼らの活動実態と意識を解明するとともに、地域の高齢者に寄り添いながら各種の社会実験を遂行し、全国各地の農村に適応可能な、生き甲斐・支え甲斐の醸成のための農村活性化モデルづくりをし、その普及可能性を考察することを目的とした。

(2) 本研究では、超高齢社会における新たな農村コミュニティ形成に向けて、3つの領域（高齢者の行動特性、地域活性化の実践を含めた取組・学習メニュー開発、行政と連携した総合的高齢者支援モデルの検討）において、高齢者の健康や心理、農村社会、地域防災、

農村建築、健康体操などから多面的に総合的なアプローチを試みた。

3. 研究の方法

(1) 持続的な農村計画モデルづくりを目指す本研究は、各学問分野間の共通理解を図りながら、社会実験の実施という本研究の特質を踏まえて、調査対象地域との良好な関係を保持しつつ、研究の素材となる住民の諸活動をサポートしながら、同時に高齢者住民の活動データの収集と分析、そしてそれらの住民へのフィードバックを繰り返し、農村活性化を担うアクティブシニアの特徴の解明にあたった。

(2) 主な調査対象の地域は、秋田県三種町の上岩川地域であり、15の小集落で構成された、世帯数201戸、人口443人、高齢化率57.3%の農村地域である。その他に、秋田県横手市の三又地区（6の小集落で構成された、世帯数85戸、人口230人、高齢化率44.8%の農村地域）などの中山間地域も対象とした。

4. 研究成果

(1) 高齢者の行動特性：調査対象地域の全世帯の調査をおこない、家族状況や生活者の意向の把握に努めた。その結果、独居高齢者世帯、高齢夫婦のみ世帯にあっても、一般に、近隣（隣組）とのネットワークを維持していること、地域づくり活動に参画しているアクティブシニアと呼ばれる高齢者は、その仲間からの誘いによって参画し、グループ内で自らの役割を見出していくという経験を重ねていることなどが明らかとなった。これは、高齢者の地域づくり意欲を増進させるためには、隣組という範囲の活用が鍵であることを示唆している。また、一部に存在する引きこもり高齢者への対処については即効的な解決策は見出しがたく、実態に即してみると、顔見知りによる地道な声かけによって心を和ませることが第一義的に重要であると考えられる。

(2) 高齢者向けの学習・実践メニュー開発：本研究期間中に各種の社会実験的な働きかけをおこなった。主な取組として、町行政の保健活動と連携した高齢者健康学習会の開催、週に一度の健康体操タイムの設定、継続的な朝市活動と養鶏飼育活動、さらには、訪問者受け入れのための地域資源（山や川等）活用イベントの開催、超高齢農村間の交流活動、地元小学生との交流活動などである。これらの社会実験により、主に以下の5つの成果を得ることができた。

第一に、健康への関心を醸成するため、保健婦や高齢者サポートの各種の仕事を目指す学生たちと地元高齢者との学習会を開催し、相互交流を図るとともに、高齢者自身による健康管理カードづくり活動を実施し、継続的活動にすべく実践を重ねた。高齢者の健康への関心は高く、何がしかの共同活動を仕組むことによって、健康管理の普及可能性が高いことを確認できた。

第二に、地元高齢者に馴染みのある「秋田音頭」の楽曲を使った健康体操を開発し、その習慣づけを図っている。朝市の取組の日（毎週日曜日）に集まり、健康体操を始めている。楽しい企画として、住民の評価を得た。ただし、朝市の開催されている会場への参加が困難な、足腰の弱った高齢者に対しては別途、健康維持の取組が求められる。

第三に、当該地域においては、高齢者による朝市（直売）や地鶏肥育などの地域活性化実践を継続的におこなっている。

前者は、地域の中心地に位置する空き家を活用して活動拠点としているが、そこは「おばあちゃん喫茶店」とも呼ばれ、高齢農家の庭先農産物が販売できる直売店機能を持つのみならず、地元高齢者と外部の人々とのコミュニティ・サロン機能を果たすようになった。高齢者女性群によって、継続的な経営が実現している。その他に、地域の特徴的な農産物であるじゅんさいへの関与も目指して

いる。

後者は、数年前に整備した鶏舎を使って平飼いの鶏を育て、生卵や鶏肉を販売する取組であり、高齢者による経済活性化の実践である。年間180万円規模のビジネスに仕上がってきた。これは主に地域の高齢者男性群によって担われており、高齢者ビジネスの基盤を形成した。

また、地域資源活用として、川魚や山菜などに着目し、訪問者をもてなす交流イベントの可能性を探っている。これらを通して、外部からの訪問者とのふれあう機会が増え、超高齢農村レベルでの交流・対流型活性化実践を意欲的に担う高齢者の参画が顕在化してきている。

第四に、廃校後の統合先小学校の教員との協議により、現役小学生との交流を始めている。8月6日に開催される「ねぶ流し」という地域の伝統行事への、子供たちの参画は地域に暮らす高齢者に元気を与えている。これは、小学生の制作した「ねぶ」と呼ばれる大きな藁人形に火をつけ川に流し、無病息災を願うものであり、高齢者の多くが楽しみにしている地域行事である。

第五に、秋田県内における類似の超高齢農村との交流を展開している。自分たちの農村だけが条件不利であるという認識が広がれば、地域づくり意欲の減退に繋がりがかねない。そこで、類似の超高齢農村との交流によって、自らの実践活動の特徴を理解するとともに、他者の実践を学びあい、他地域の仲間を獲得することができた。

(3) 行政と連携した高齢者支援のあり方：

当該研究による働きかけによって、町役場の健康福祉課と企画政策課が連携して超高齢社会への行政的な対応を検討してきた。そして、具体策の一つとして、クアオルト事業（豊かな自然環境の中を散策し、癒しを体感する健康活動）の導入を積極的な図ることになり、町内に5箇所のコースを整備している。

当該の調査地域でもその一つのコースが含まれたことを契機に、クアオルト参加者との交流に加え、地元高齢者と行政との意見交換の機会を拡充してきている。これにより、行政は地域に暮らす高齢者の声を直接的に把握することができ、高齢者にとっては行政を支える意気込みが形成されつつある。また、末端の地域コミュニティとの協働によって、高齢者見守り活動への刺激を与えることができた。

以上のような取組は、高齢者を包む3つの階層（個人レベル、仲間集団レベル、そして行政への接点レベル）への接近に対応するものである。高齢者の協働に基づく地域づくり実践活動は、高齢者個々のコミュニケーションの促進に寄与するとともに、地域ビジネス創造が高齢者住民自らの手によって実現できることを実感でき、さらには行政との協働によるクアオルト等の健康活動への参加により、地方行政との間の心理的な距離を縮めることにもなることが検証できた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 10 件)

荒樋 豊、「がっこ茶屋」というコミュニティ・サロンの形成、秋田県立大学ウェブジャーナルA：地域貢献部門(第4号)、査読無、2017、pp.91 - 103

<https://akita-pu.repo.nii.ac.jp/>

内山 応信、三種町役場による気候性地形療法クアオルト健康ウォーキングの効果検証、三種町におけるクアオルト報告書、三種町企画政策課、査読無、2017、pp.1 - 4

荒樋 豊、農村女性の起業（グリーン・ツーリズム）との出会い - 寺田要子の生活改良普及手法、農村生活研究、査読有、第60巻第1号（通巻152号）、日本農村生活学会、2017、pp.41 - 45.

荒樋 豊、三種町におけるじゅんさい振興、三種町じゅんさい振興アクション・プログラム、三種町商工観光交流課、査読無、2016、pp.1 - 44

渡部 諭、基礎講座：老年心理学の最前線、老年精神医学雑誌、査読有、第26巻第10号、2016、pp.1157 - 1164

渡部 諭・渋谷 泰秀・吉村 治正・小久保 温、秋田県在住高齢者の振り込め詐欺脆弱性の分析、秋田県立大学ウェブジャーナルA：地域貢献部門(第3号)、査読無、第3号、2016、pp.77 - 88

<https://akita-pu.repo.nii.ac.jp/>

渡部 諭・荒樋 豊・渋谷 泰秀・吉村 治正・小久保 温、高齢者における詐欺犯罪に対する脆弱性、秋田県立大学ウェブジャーナルA：地域貢献部門(第2号)、査読無、2015、pp.61 - 71

<https://akita-pu.repo.nii.ac.jp/>

荒樋 豊、「グリーン・ツーリズムで楽しむ田舎の魅力」、WEB観光政策フォーラム、「視点」、査読無、2015

<https://kankou-redesign.jp/pov/526/>

荒樋 豊、三種町における3つの祭り、三種町の祭りに関する事業評価報告書、三種町商工観光交流課、査読無、2015、pp.1 - 49

荒樋 豊、四ツ小屋地区の未来図づくり、田園を渡る新しい風：四ツ小屋地区設立60周年記念誌、四ツ小屋地区振興会、査読無、2015、pp.89 - 107

〔学会発表〕(計 7 件)

村上 歩・荒樋 豊、超高齢農村における住民生活の実態と高齢者ビジネスの可能性 - 秋田県三種町を事例として - 、平成28年度日本農村生活学会大会報告、2016.10.10、十文字女子大学（埼玉県新座市）

Keiko Suzuki, Yutaka Arahi, Minaka Nagata, "Factors Associated with the

Subjective Sense of Well-being of Elderly Residents in Japan ”、第 19 回 EAFONS(East Asian of Nursing Scholars) 2016.3.14、千葉大学 (千葉県千葉市)

Watanabe Satoshi , Analysis of personal network of the elderly in Japan , The Gerontological Society of America`s 68th Annual Scientific Meeting , 2015. 11.20 , Orlando(Florida USA)

石山 真季・三橋 伸夫・本庄 宏行、学校統合が環境教育における学校・地域の環境資源の活用に与える影響に関する研究、日本建築学会大会報告、2015 . 11.14、東海大学湘南キャンパス(神奈川県平塚市)

鈴木 圭子・荒樋 豊・永田 美奈加、要支援・要介護を受けていない地域在住高齢者の活動能力とヘルスリテラシーの関連、日本看護科学学会大会報告、2015 年 12 月 6 日、広島国際会議場 (広島県広島市)

石川 隆志・津軽谷 恵・高橋 恵一・久米裕・荒樋 豊、過疎地域在住高齢者との協業による傾向増進活動、第 49 回日本作業療法学会大会報告、2015.6.30、神戸国際展示場 (兵庫県神戸市)

石川 隆志・津軽谷 恵・高橋 恵一・久米裕・荒樋 豊、過疎地域在住高齢者との協働による健康増進活動、第 48 回日本作業療法学会大会報告、2014.6.23、パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

荒樋 豊 (ARAHI Yutaka)

秋田県立大学・生物資源科学部・教授

研究者番号 : 2 0 3 6 9 2 7 6

(2)研究分担者

石川 隆志 (ISHIKAWA Takashi)

秋田大学・医学(系)研究科(研究院)・教授

研究者番号 : 2 0 2 4 1 6 8 0

渡部 諭 (WATANABE Satoshi)

秋田県立大学・総合科学教育研究センター
一・教授

研究者番号 : 4 0 2 4 0 4 8 6

内山 応信 (UCHIYAMA Masanobu)

秋田県立大学・総合科学教育研究センター
一・准教授

研究者番号 : 3 0 4 6 4 5 5 6

渡辺 千明 (WATANABE Chiaki)

秋田県立大学・木材高度加工研究所・准教授

研究者番号 : 5 0 3 6 3 7 4 2

石山 真季 (ISHIYAMA Maki)

秋田県立大学・システム科学技術学部・助教

研究者番号 : 5 0 6 3 6 8 7 6